

消防

第10号

平成24年3月7日
高岡市消防団成美分団発行



消防団員募集中!

高岡消防署長

今井仁至

地域の皆様方には、日頃から消防行政に対しまして、変わらぬご理解とご協力をいただいておりますことにつきまして厚くお礼申しあげます。

さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、観測史上最大級のマグニチュード9.0の巨大地震に加え、広範囲にわたる津波、原子力発電所における事故及び石油コンビナート火災を伴う大規模広域複合災害となり、多くの尊い人命と貴重な財産を一瞬にして奪った未曾有の災害となりました。

そして、被災した家族がいながらも、多くの消防団員が活動し、大規模災害時等の消防団活動の重要性が改めて認識されたところであります。

しかしながら、全国的に見て消防団員の数は減少傾向にあり、平成元年には100万人以上いた消防団員が今では90万人を割る状況となっております。

定員数に対する実員数を表す充足率については、平成23年4月1日現在で、県内平均が94.9%であり、市町村別では高岡市が最も低く88.0%となっております。

地元の成美分団については、定員数が24名のところ、今年2月1日現在で、22名の団員数で各種の活動を行っております。

消防団には、18歳以上で、高岡市内に居住しているかまたは勤務している人なら、どなたでも入団することができます。

地域の安心安全は自分たちが守るといふ熱い心がある方は、この消防団の実情をご理解いただき、ぜひ、地元消防団への入団をお願いいたします。



成美分団分団長

室谷明雄

新しい年を迎えて早二カ月が過ぎ、春の気配が感じられる今日この頃です。

校下住民の皆様には、平素より成美分団活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年6月、永年成美分団に数々の功績を重ねてこられた二上分団長がご勇退され、7月より私、室谷が新分団長を拝命いたしました。

地域の皆様の生命財産を火災や災害から守る使命を深く自覚し、団員の心を一つに纏め、地域に貢献できる消防団を目指し、粉骨砕身努力する覚悟であります。

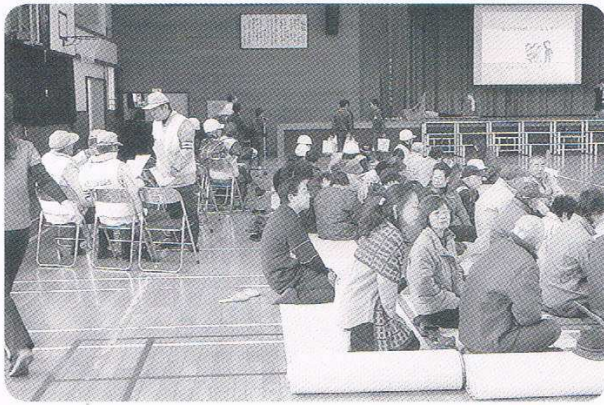
成美は昔から防火意識の高い地域で、独自で夜回りをされている町内がたくさんあります。

この強い防火の精神は、地域の方々や分団の諸先輩方から営々と受け継がれ、成美の子供たちにもしっかりと伝えられています。

それは昨年秋、成美小学校の子供たちが自ら企画し地域に呼びかけた防災訓練に参加して、そのことを深く実感いたしました。もうすぐ、昨年の3・11東日本大震災後一年を迎えます。

何時どこで起きるか分からない大災害に備え、我々団員も日頃からいざという時の為に訓練や活動を通しより一層団結心を深めてまいります。

どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻を下さいます様よろしくお願い申し上げます。



子供たちの企画による地域合同避難訓練

成美小学校校長 長尾 順子



「陸前高田市の広田地区には、高台にある公民館が避難場所になっていて、これまで何度となく地区の避難訓練をしていました。でも、参加しないご夫婦がいて、いくら誘っても参加されません。3月11日の津波の日は、逃げろと声をかけ住民が公民館に集まってきました。でも、あのご夫婦の姿は見えませんでした。ご夫婦と若い娘さんは津波に飲み込まれて亡くなられました。」と、成美小学校に来校された時に話された陸前高田市広田地区の方の話が、避難訓練をするたびに思い出されます。

東日本大震災の教訓から、自分で感じ考え、判断できる子供に育てることが学校教育の使命と考え、子供たちと一緒に防災会議を行い、避難訓練を考えてきました。

地域合同避難訓練では、子供たちの真儼な姿が渦潮のように、地域の方を巻き込んでいったことに驚きました。各町内から声をかけられた方が50人程度参加されるだろうと思っていたので、150人の皆さんの姿に声も出ませんでした。成美校下は凄すぎます。各町内の避難場所から、ヘルメットにカップ、手には長靴をもって一列に整然と歩いてこられたり、奥さんが足の不自由な旦那さんの手を取りゆっくり歩いてこられたり、孫をおんぶして歩いてこられたりなど、たくさんの人々が集まりました。でも、体育館は私語がなく、ずうっと静かな時間が流れ続けました。

成美保育園の保育士さんは、ずっと無言のまま、両手に4人の子の手をつないで、慎重に階段を上がり3階集会室まで避難してこられました。保育士さんの真剣さが園児にすっかり移っていて、無言のまま列を乱れることがなく、長い間じっと座っている園児の姿がありました。

学校の玄関に駐車している赤い消防自動車の存在は、避難する人々を安心させ、どこか真剣な空気を校舎内外につくってくれました。

でも、その消防自動車も、子供たちが消防署へ広報車を出してほしいと頼みに行った時には、「広報車を出すと本当かと思って、間違う人がいるから出せません」と一度は断られ、その理由に子供たちは納得しました。それでもと思い、成美分団長の室谷さんにもう一度頼んでみました。すると、「僕たちに出来ることをさせてください」と二つ返事で、分団の消防自動車で町内を回ってくださることになりました。

子供の手を差し出す手にしっかりと手をつないでくださる地域の方。そして、その手がまた次々とつながっていていることを6年生はもちろん、他の学年の子供たちも知っています。成美校下の人々を自分たちの誇りだと思える子供たちは幸せです。

高岡市議会議員 永 森 茂

地域の安全・安心の暮らしを守るために、日夜活動していただいています成美分団の皆さま、本当にありがとうございます。

未曾有の災害と言われた東日本大震災から早1年が経とうとしていますが、本格的な復興はまだまだこれからというところです。

近年の災害傾向は、地球温暖化などの影響により、たび重なる台風の襲来、集中豪雨、さらに大地震が頻繁に発生しており、そのたびに甚大な被害が発生しています。

このような災害に対し、初期の段階で対応し、特に人的被害を最小限にとどめるため、地域に密着し、その地域に精通している消防団員の皆さんの活動が重要な役割を担っています。東日本大震災でも消防団の活躍により多くの人の命が救われ、消防団の重要性が改めて認識されました。

皆さん仕事をもちながら本当に大変でしょうが、今後とも健康に留意されご活躍されることをお祈り申し上げます。

高岡市消防団で東日本大震災被災地(石巻地区)を視察してまいりました。

(各分団1名参加、成美分団は4名参加)



女川町地内の様子。鉄筋3階建ての建物が、横たわっています。手前側が屋上部分。20m位の高台に病院があり、病院の1階部分まで水が来たそうです。町役場は、3階まで水につかり屋上に逃れた人だけが助かった。



石巻市雄勝町公民館の建物の上に、地元の観光バスが乗っています。幹回り1mはあろうかという立木が、ねじ切れています。近くの中学校の生徒は、すぐ横の山へ避難して無事でした。



たくさんの児童が津波に流された大川小学校。手前の道路が橋から続く堤防道路。子供たちはここまで避難していましたが、すぐ横を流れる北上川を海岸から4km以上も津波が逆上ってきて、貴重な人命が奪われました。橋脚が橋の上流400mまで流されています。

平成24年春季火災予防運動

期間中校下巡回広報

3月20日(火)～3月26日(月)

全国統一防火標語「消したはず 決めつけないで もう一度」

重点目標

- 1、住宅防火対策の推進
- 2、放火火災防止対策を含めた地域ぐるみの防火安全対策の推進
- 3、特定防火対象物における防火安全対策の徹底
- 4、林野火災予防対策の推進
- 5、乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進



3月18日(日) 高岡方面団春季訓練 午前9:00～11:30

平成24年 高岡市消防出初式 1月7日(土)



実施場所
城東町地内



「防災の架け橋つなぐ地域の輪」

(防火防災マイタウンキャンペーンスローガン)

目的…平成24年の新春初頭にあたり、高岡市消防機関の職団員が職責の自覚を新たにし、防火防災に対する心意気を高めることを目的とし、実施された。

栄えある表彰

- 無火災表彰……………成美分団
- 精勤表彰(20年)…細呂木 勉
- 精勤表彰(15年)…関 尚宏

分団員紹介



平成二十四年出初式



分団庁舎にかけてある
団員の心意気を示す額
これを合言葉に団員一致團結

階級	氏名	所属自治会
分団長	室谷明雄	大坪町三・四丁目
副分団長	加納 満	熊野町一・二丁目
部長	馬場裕一	羽衣町
部長	橋本米暁	開発本町
部長	慶寺長造	地子木町
部長	吉田英喜	開発本町
班長	栗田 実	縄手町
班長	細呂木勉	地子木町
班長	橋田弘嗣	大坪町三・四丁目
班長	鷺北 稔	地子木町
班長	折本寛之	上桶屋町
団員	関 尚宏	塩倉町
団員	室谷英夫	縄手町
団員	東 弘光	宝町
団員	今村裕二	レジデンス新成
団員	井波大介	明野町
団員	林 靖浩	開発本町
団員	池崎智幸	開発本町
団員	江淵元将	熊野町一・二丁目
団員	越井賢一	向野町
団員	村谷諭志	地子木町
団員	樋口順彦	新成町

成美分団員募集中!

◎成美分団ホームページ：www.senmaike.net/seibibundan/

「さしこ」
第10号

発行責任者 室谷明雄 (分団長)
編集・構成 慶寺長造
印刷 林印刷所